

## ◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(女性、70歳代)あります。症状は発熱・咳嗽・呼吸困難・下痢・意識障害・肺炎・多臓器不全・その他(脱力)です。推定感染地域は国内で、推定感染経路は水系感染です。本年の累積報告数は8例となっています。
- ・ 梅毒(早期顕症・Ⅱ期)の報告が1例(男性、20歳代)あります。推定感染地域は国内で、推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は6例となっています。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性、20歳代)あります。平成25年4月1日から五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降、累積報告数は11例となっています。
- ・ 風しん(検査診断例)の報告が1例(男性、50歳代)あります。本年の累積報告数は210例となっており、風しんが定点把握疾患から全数把握疾患に変更(平成20年)以降、最も多かった平成24年の累積報告数(26例)と比べて、約8.1倍となっています。全国の累積報告数も14,270例と平成24年(2,391例)と比べて、約6.0倍となっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.00(41例)で、前週 0.59(24例)に比べ約1.7倍増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。今後の動向にご注意ください。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.78(32例)で、前週 0.90(37例)より減少しているものの、第34週(8月19日～8月25日)以降、10週連続で過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。今後の動向にご注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: &lt; 感染性胃腸炎 &gt;

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.02(165例)で、前週 2.44(100例)に比べ約1.6倍増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数把握の感染症

- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症・Ⅱ期) 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 210例】

## 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点              | 感染症名            | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------------|----------|-----|
| インフルエンザ*        | インフルエンザ         | 0.04     | 3   |
| 小児科<br>(降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎        | 4.02     | 165 |
|                 | ② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 1.00     | 41  |
|                 | ③ RSウイルス感染症     | 0.78     | 32  |
|                 | ④ 水痘            | 0.71     | 29  |
|                 | ⑤ 手足口病          | 0.44     | 18  |
| 眼科              | 流行性角結膜炎         | 0.60     | 6   |

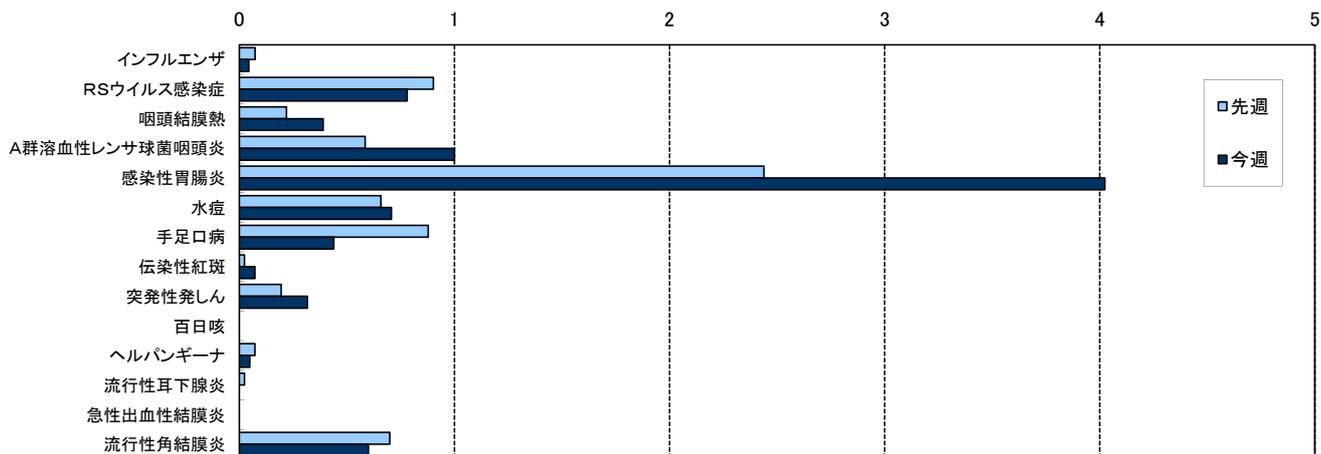
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: < 感染性胃腸炎 >

(注) 京都市のデータは、平成25年11月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

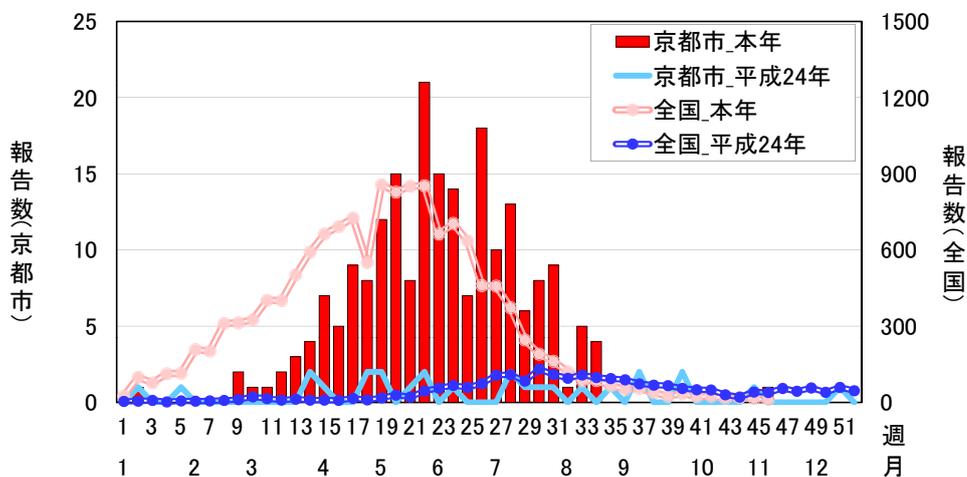
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第46週)と先週(第45週)の定点当たり報告数の比較



## 2 風しんの推移

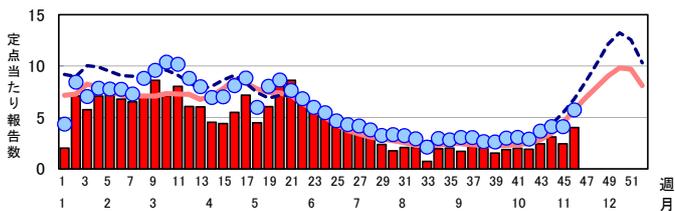
| 今週の報告数(累積報告数)<br>平成25年11月21日現在 |              |
|--------------------------------|--------------|
| 京都市                            | 1例 (210例)    |
| 京都府(京都市を除く)                    | 0例 (113例)    |
| 近畿6府県                          | 2例 (5232例)   |
| 全国                             | 13例 (14270例) |



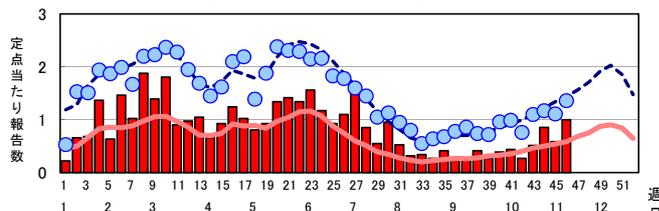
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

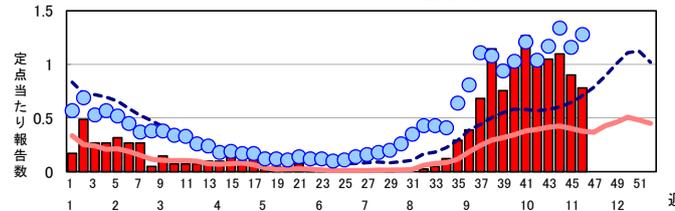
1 感染性胃腸炎



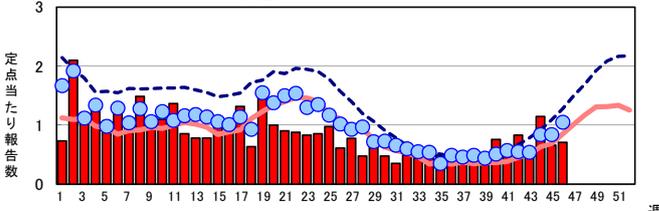
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 RSウイルス感染症

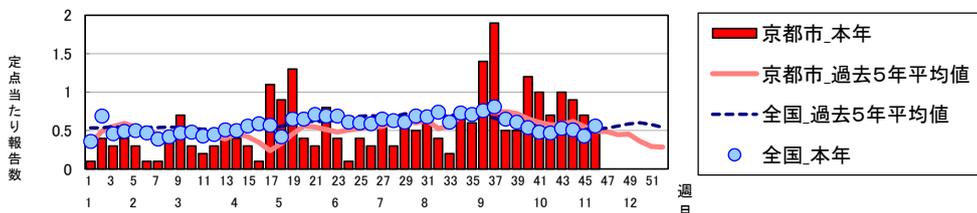


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎



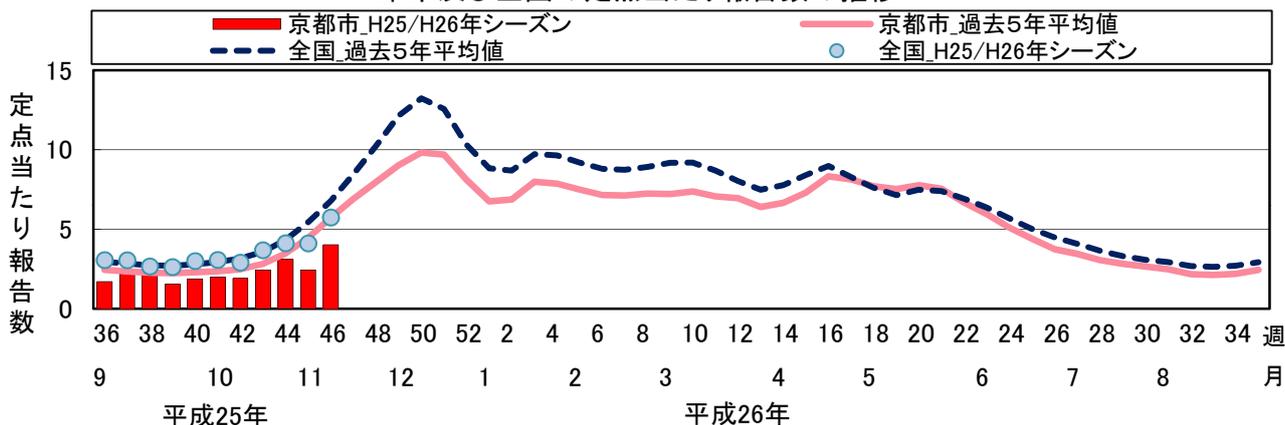
## 第46週(11月11日～11月17日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.02(165例)で、前週 2.44(100例)に比べ約1.6倍増加しています。例年、ノロウイルス感染を原因とする感染性胃腸炎が冬季に増加し、11月～1月中旬にピークを形成しますので、今後の動向に注意が必要です。

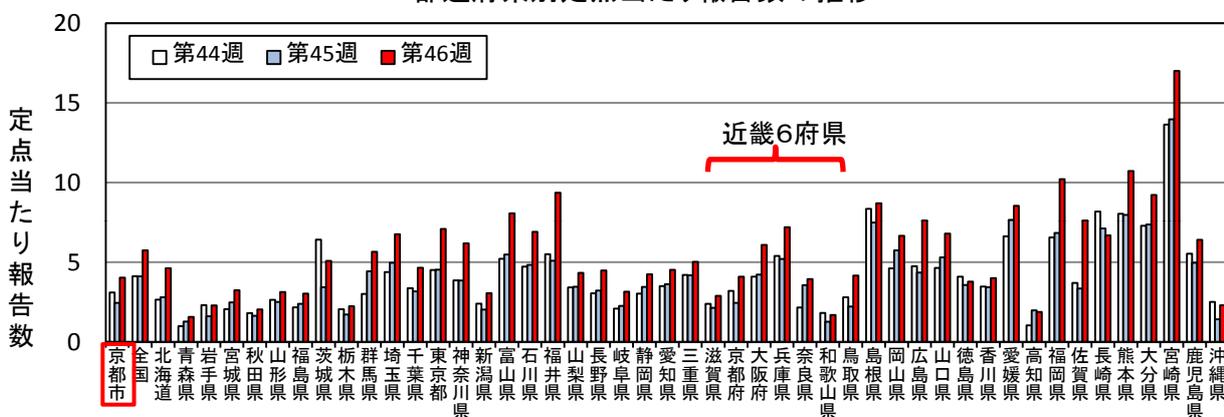
都道府県別における定点当たり報告数の推移をみると、高知県及び長崎県を除く45都道府県で前週より増加しており、そのうち8道府県(北海道、神奈川県、福井県、京都府、鳥取県、広島県、佐賀県、沖縄県)では前週の1.6倍以上となっています。

年齢階級別では、各年齢層から報告がありますが、1歳及び2歳が各19例(11.5%)と最も多くなっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移

